

令和7年度第3回学校運営協議会 議事録

校 名	大阪府立久米田高等学校
校長名	藤原 和子

開催日時	令和8年2月14日(土)10:00～12:00
開催場所	久米田高等学校 校長室
出席者(委員)	堂之本会長、福井委員、阪本委員、田中委員、山形委員
出席者(学校)	藤原校長、木下教頭、小幡事務長、宮本首席、田戸首席、山口教諭、山本講師
傍聴者	なし
協議資料	・令和7年度 学校評価 ・令和8年度 学校経営計画 ・令和7年度 久米田高校マネージメントシート ・令和7年度 学校教育自己診断 ・令和7年度 第2回授業アンケート結果
備考	

議題等(次第順)	
・校長挨拶	
・協議委員紹介	
・資料確認	
・令和7年度 学校評価 ・令和8年度 学校経営計画 ・令和7年度 久米田高校マネージメントシート ・令和7年度 学校教育自己診断 ・令和7年度 第2回授業アンケート結果 ・その他	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
《令和7年度 学校評価》 学校運営協議会からの意見を今年度の第1回・第2回に反映した。自己評価の多くは「◎」または「○」であり、概ね目標を達成している。課題としては、項目1「学力の向上」の(1)イについて、「他教科を含む教員の間で、授業見学や授業方法の意見交換などを行い、教育力の向上に取り組んでいる」の教員の肯定的回答が目標に達しなかったことである。 《令和8年度 学校経営計画》 久米田高校は「4本の柱」をすべて大切にしている学校である。中期的目標に関しては前年度のものを踏襲し、継続して目標達成に向けて取り組む。前年度からの変更点は以下の通り。 ・ポジティブ行動支援(PBS)の推進。 ・指標をCEFRから「英検(準2級取得者数)」へ変更し、より分かりやすい目標設定とする。 ・希望倍率の現状維持、校長ブログの更新継続。令和9年度に向けた校務分掌・委員会の定員見直し。 《令和7年度 久米田高校マネージメントシート》 ・進路指導の現在の実績は国公立大学合格4名、関関同立30名、近畿大学29名(一般選抜中期日程時点)。看護系専門学校および公務員試験においても合格者を輩出。今年度の3年生は上位校への「チャレンジ精神」が強く、共通テスト受験者は42名に達した。生徒アンケートにおいて肯定的な回答が大部分を占めている。 ・広報では、秋・冬の学校説明会に多くの中学生・保護者の方に参加いただいた。近隣中学校への訪問や進路講演会を積極的に実施。次年度は特色枠に関する情報発信を強化し、本校の魅力を広く周知する。 ・教務部について、現行カリキュラムの運用に支障はなく、適切に進行している。 ・ICT活用について、1人1台端末(Chromebook)の活用が定着し、基本的な操作に関するサポートは減少した。一方で、端末の故障対応やシステムの管理運用を担える教員に限られており、体制の充足が急務である。 ・生徒会部では、今年度も多くの先生方のおかげで、生徒の満足度の高い行事を行うことができた。しかし、一部の先生の負担が大きくなることもあり、運営体制について改善の余地がある。行事が終了した後期生徒会については、来年度使用する学校紹介動画を作成中である。 ・保健部について、12月に大規模地震を想定した「垂直避難訓練」を実施。従来の避難経路とは異なる新しい形での教職員・生徒間の連携確認を行い、災害対応能力の向上を図った。 ・各教科の取り組み 数学科: 数学に苦手意識を持つ生徒に対し、背景にある理論や数学的な見方を重視した指導を展開。個別質問への対応や講義を並行し、基礎学力の定着をめざす。 情報科: 大学入学共通テストにおける「情報」の試験対策を強化している。 社会科: ICTを活用し、視覚的教材の導入など生徒にとってわかりやすい授業を展開する教員が多い。また、入試に向けて講習を随時行っている。 英語科: 英語コミュニケーションの授業において端末を効果的に活用している。ペアワーク等を取り入れつつ、家庭学習を促すサイクルを構築している。 従来の教員主導の講義形式から、生徒が自ら思考し発信する「主体的・対話的で深い学び」への転換が多くの授業で見られる。 ・総務部について、保護者の皆様の協力を得て、非常に活発かつ積極的なPTA活動が展開されている。 《令和7年度 学校教育自己診断》 「学校に行くのが楽しい」「学校行事を楽しく行えている」について肯定的回答がほとんどである。課題としては、教職員間での授業見学や生徒の家庭での自主学習の時間の少なさである。 《令和7年度 第2回授業アンケート結果》 特に「生徒理解」「教材活用」の項目について、第1回授業アンケートより全体的に向上している。	
次回の会議日程	
日時	令和8年6月27日10:00～(予定)
会場	大阪府立久米田高等学校